

黙示録 17 章 16 節-18 章 3 節 スタディーガイド

★ 黙示録 17 章 16 節-18 節

あなたが見た十本の角と、あの獣とは、その淫婦を憎み、彼女を荒廃させ、裸にし、その肉を食い、彼女を火で焼き尽くすようになります。それは、神が、みことばの成就するときまで、神のみこころを行う思いを彼らの心に起こさせ、彼らが心一つにして、その支配権を獣に与えるようにされたからです。あなたが見たあの女は、地上の王たちを支配する大きな都のことです。

16 節「あなたが見た十本の角と、あの獣とは、その淫婦を憎み、彼女を荒廃させ、裸にし、その肉を食い、彼女を火で焼き尽くすようになります。」
大患難時代の中で、10 人の王たちが反キリストに権力を与えた後、異端宗教の協議会のようなものは不要になり破壊されます。そして神殿は焼き尽くされます。

16 節「裸にし、その肉を食い」

神殿の金銀は奪い取られます。

いよいよ、反キリストを神とする宗教が強制される時がきました。

17 節「それは、神が、みことばの成就するときまで、神のみこころを行う思いを彼らの心に起こさせ、彼らが心一つにして、その支配権を獣に与えるようにされたからです。」
神様のみことばが成就する時が近付き、反キリストに世界の支配権が与えられます。

バビロンは経済の首都として保たれますが、異教の神殿とそれに関連するものは全部破壊されます。

18 節「あなたが見たあの女は、地上の王たちを支配する大きな都のことです、」
大バビロンと呼ばれる淫婦は、神殿があった大きな都、世界の宗教本部だった所のことです。

神殿が破壊され、宗教の権威は反キリストに与えられます。

★ 第二テサロニケ人への手紙 2 章 3 節-4 節

だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。

彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。

ご再臨まで、あと3年半です。ご再臨の前に、どうしても起こらなければならないことがあります。

3節「だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです。」

主の日であるご再臨の前に、二つのことが起こらなければなりません。

一つは、背教が起こらなければなりません。背教は、ギリシャ語のアポスタシアという言葉が使われており、真理から離れる、墮落するという意味です。

多くの神学者が、この背教は神様に背を向けることであると考えていますが、世界は元々、神様に背を向けているので背教の中に入りません。

この箇所は、神様に仕えているユダヤ人やクリスチャンが、神様に背を向けるという意味であると思われます。

近代社会では、真の神様に仕えていたユダヤ人がゲイパレードを行うようになり、2011年からは、聖なる都と呼ばれているエルサレムでもゲイパレードが行われるようになりました。

また、イエス・キリストに仕え、キリストの花嫁である教会が同性愛結婚を認め、教会で同性愛の結婚式が行われ、同性愛者が牧師になるということが起こっています。

また、同じ背教という言葉であるアポスタシアを、アポスタシオンの原語から見ると、離婚するとか、ある物から離れるという意味となります。これを、イエス様が教会を迎えに来られる出来事、第一テサロニケ人への手紙4章17節の携挙に当てはめる神学者もいます。

第二テサロニケ人への手紙2章3節で書かれている、ご再臨前に起こらなければならない一つ目の出来事は、「真理に立っていた人々が真理から離れる出来事、または別の解釈で、教会の携挙が起こらなければご再臨がないから、誰にもだまされないように」という意味になります。

ご再臨前に起こらなければならない二つ目の出来事は、「不法の人、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないからです」とある通り、反キリストが現れなければご再臨は起こりません。

神様のマスタープランは、ご再臨によって起こる神の御国なしでは不完全です。ですから、反キリストは必ず現れ、ご再臨は必ず起こります。

4節「彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言します。」

反キリストは、すべての宗教に反抗し、自分が神であると宣言し、神の宮である第三神殿の中に座を設けます。

これらのことが起こらなければ、ご再臨は起こらないので「誰にもだまされないようにしなさい」ということです。

★ 黙示録 18 章 1 節－3 節

この後、私は、もうひとりの御使いが、大きな権威を帯びて、天から下って来るのを見た。地はその栄光のために明るくなった。彼は力強い声で叫んで言った。「倒れた。大バビロンが倒れた。そして、悪霊の住まい、あらゆる汚れた霊どもの巣くつ、あらゆる汚れた、憎むべき鳥どもの巣くつとなった。それは、すべての国々の民が、彼女の不品行に対する激しい御怒りのぶどう酒を飲み、地上の王たちは、彼女と不品行を行い、地上の商人たちは、彼女の極度の好色によって富を得たからである。

1 節「もうひとりの御使いが、大きな権威を帯びて、天から下って来るのを見た。」
重要な発表をするために、御使いが天から降りてきました。

2 節「倒れた。大バビロンが倒れた。そして、悪霊の住まい、あらゆる汚れた霊どもの巣くつ、あらゆる汚れた、憎むべき鳥どもの巣くつとなった。」
バビロンが、人々の住めない状態になっていることを語っています。
人類の歴史の中で、バビロンがこのような状況になったことは、一度もありません。

3 節「地上の王たちは、彼女と不品行を行い、地上の商人たちは、彼女の極度の好色によって富を得たからである。」
7 年の大患難時代の最後に起こる、ハルマゲドンの会議が開かれる時です。

反キリストの軍隊が、ボツラに隠れているユダヤ人たちと、イスラエルの土地に潜んでいるユダヤ人たちを抹殺するために集まっています。

首都であるバビロンには、ほとんど軍隊がいなくなっています。
神様によって生き残っている異邦人信者である勇士たちが、バビロンを襲います。

★ イザヤ書 13 章 3 節－5 節

わたしは怒りを晴らすために、わたしに聖別された者たちに命じ、またわたしの勇士、わたしの勝利を誇る者たちを呼び集めた。聞け。おびたしい民にも似た山々のとどろきを。聞け。寄り合った王国、国々のどよめきを。万軍の主が、軍隊を召集しておられるのだ。彼らは遠い国、天の果てからやって来る。彼らは全世界を滅ぼすための、主とその憤りの器だ。

3 節「聖別された者たちに命じ、またわたしの勇士、わたしの勝利を誇る者たちを呼び集めた。」

主に聖別された者達は、大患難時代を生き延びた人々で、戦いのために、主によって集められています。

5節「彼らは遠い国、天の果てからやって来る。」

主とその憤りの器です。

★ イザヤ書 13章 19節-20節

こうして、王国の誉れ、カルデヤ人の誇らかな栄えであるバビロンは、神がソドム、ゴモラを滅ぼした時のようになる。そこには永久に住む者もなく、代々にわたり、住みつく者もなく、アラビヤ人も、そこには天幕を張らず、牧者たちも、そこには群れを伏させない。

19節「王国の誉れ、カルデヤ人の誇らかな栄えであるバビロンは、神がソドム、ゴモラを滅ぼした時のようになる。」

イスラエルの死海の側のソドムとゴモラがあった場所は、草一本生えていない誰も近付かない所となっています。

バビロンに対するこの預言は、現在に至るまで一度も成就していない預言ですから、未来に起こることです。

◆MEMO◆



OMEGA MINISTRIES
OMEGA BIBLE STUDY